



## 申11号「2024年度夏季手当に関する申し入れ」議論をおこなう！①

(組合) 前回の交渉を経て、私たちも情報発信をおこなった。当初の計画を大きく上回っての会社経営であったと認識。そこに対しての組合員の気持ちであったり、認識について是非今日の場で議論していきたい。**この間職場では様々な施策に協力し今回の結果が出た。会社としても腹をくくっての還元をお願いしたい。**賃金とは労働力の再生産費ということであり、今だ落ち着かない物価高で家計も相当苦しい思いをしている。そういった生活実態があることも忘れないでいただきたい。以前は**ブランド力であったり、会社名に惹かれて当社に来られる人はいたが、今の時代はそういったことでは選ばれにくい世の中になりつつある。今は労働者が労働条件や待遇を見て会社を選ぶ時代。今一度現場を担う社員の努力で、今回の黒字が達成したことを会社にも噛みしめてもらい、検討していただきたい。**今回の賞与に対しては、人がどうしたら共感するのか、人の大切さを加味してもらいたい。人の心に響く回答判断をお願いしたい。職場から挙がっている多くの意見がこの様な内容である。

(会社) 皆さんの協力あつての結果であることは前回も伝えた通りである。しかしながらこの黒字をもって経営が安定してきたと判断するには時期早々ではあると思っている。当然ながら**中長期的に見ての判断とはなるが、出し惜しみせずこれからもこの先も還元していきたい考えだ。当社としてもブランドや看板に頼る時代ではないと思っている。黒字になったからこそ還元していきたい。それは経営陣も気持ちは同じだ。**しかしながら業績連動給という側面がありながらも、**現在の会社体力を鑑みればコロナ禍前と同じような物差しでは賞与を考えていくのはなかなか難しい。**

(組合) 直近では夏季輸送が控えている。運賃改定施策のことも職場では耳に入ってきている。**年間を通して一番のボリュームとなる夏季輸送をどこまで完遂するのか。我々としても昨年度の実績を超えるようなものにしたいと考えている。それには今出せるものを出さなければならない。**

(会社) そういったモチベーションを当てる気持ちもわかるが、今回の夏季手当は昨年度の下期に対する業績還元であるものと認識する。昨今大きな収入源となるインバウンド輸送に関して、先の見通しがなかなか不安で一過性のものであるという認識に留めている。当社としてもそこに対しての一本足打法は危険と思っている。施策としてもそのインバウンド需要だけに傾注するだけでなく、運賃改定をおこないより様々なところから収支のボリュームに厚みを持たせたい。**モチベーションについても否定はしないが、これからの夏季輸送の成果は期末手当での還元をしていきたいと考える。**

(組合) 職場の肌感覚で言えば、便平均乗車率が上がっており今まで以上に旅客動向が高い状況。今回は少しでも考えてもらいたいといった声があつても増して多い。その気持ちである。あと少し出れば…そう言われる組合員は多い。チャレンジセーフティ運動もボトムアップでの職場から問題意識や安全意識の風土を醸成するものと伺っている。施策を担う者のモチベーションが低ければ施策としては成り立たないものと推測する。感情論になってしまうが、見えない個々の気持ちのところも推し量ってもらいたい。

(会社) 会社としても気持ちの問題と片付けてしまうのは簡単だが、そこに対する社員の認識は賃金に対してが高いものであると思っている。しかしながら賃金でモチベーション全てを解決できるのかといえば決してそうではなく、どんなに出しても納得できない層はいるし、賃金だけがモチベーションの全てではない。

(組合) **きっかけが欲しいということだ。これだけ頑張り、これだけの結果が出せた。だからこの先もどんどん賞与の支給を以前のような数字に戻していきたい。今回はその足掛かりとなるような賞与にしてもらいたい。**

**モチベーションが低いのではなく、維持してきたからこそ黒字転換できた！  
そこに対する、努力と結果を会社は今こそ正當に評価すべきだ！**